

医薬原薬・中間体

ビジネストレンドを読む

④

先端領域を支える

トエンジニアリング業界も医薬品プラントは安定収益を確保できる成長領域として受注獲得を急いでいる。

医薬品業界の関係者にとって重要な情報交換の場として定着している国際医薬品原料・中間体展「CPH I ジャパン」。反応装置・機器、専用測定装置など先端機器メーカーも自社技術の紹介、顧客開拓などにつながる場として注目している。医薬品ビジネスのグローバル化とともに、後発薬（ジェネリック）普及によるコスト競争、バイオ医薬品をめぐる先端領域での研究開発は激化の一途。プラン

トエンジニアリング業界も医薬品プラントは安定収益を確保できる成長領域として受注獲得を急いでいる。反応装置、攪拌機、分析機器などの製造装置メーカーでは化学品、食品、電子材料と並び原薬・中間体・製剤の製造プラント向け装置を高付加価値製品と位置付けている。各社は大学・企業の研究開発用途をはじめ、製造プロセス用や品質管理向け装置できめ細かく顧客ニーズに応える考え。原薬・中間体 機器／装置

機器・装置にも商機



東京アトマイザーの微粉碎機「ミルスターダム」



IPHICは開発段階からきめ細かく顧客を支援（パイロット規模の試験設備）

展「P-MEC」では各社が先端機器を紹介する。

高度な技術生かす

昭光サイエンティフィックスはコストを抑えた4重極型・簡易質量分析計、ガラス製フローリアクター、超微量分光光度計を発表す

る。東京アトマイザー製造は原薬や賦形剤を平均10分間に粉碎でき、サニタリー性を追求したステンレス製の医薬仕様機として多品種少量に対応可能な高性能微

粉砕機「ミルスターダム」を展示。リカクは高分解能3DX線頭微鏡「ナノ3DX」で、錠剤や粉体をサブミクロン領域で観察できる特徴を訴求する。装置メーカーは高度な技術力で原薬・中間体・製薬メーカーの高機能化ニーズに応えていく姿勢を強調している。その反面、懸念も指摘されている。今後の成長市場であるバイオ医薬品（ワク

チン、抗体医薬品）の開発や生産支援用の培養装置は大半が輸入品であることだ。バイオ医薬品は容器を使う浮遊細胞培養プロセスと、トレーを使う接着細胞培養プロセスの2タイプがあり、今後はバイオ医薬品向け培養装置や周辺機器について国産化を求める声有一段と強まりそう。

エンジニア業界も注目

年間3000億円と推測される医薬品プラントエンジニア市場でも受注競争が激しさを増す。高薬理活性物質を用いた医薬品やバイオ医薬品の設備投資が増加する

みに受注活動を強化。大成建設は医薬品施設からプラント建設まで幅広く展開し事業基盤を広げる。

IHIグループのIHI IPHICは、経験が少ないバイオベンチャーに開発段階から設備化まできめ細かいサービス体制で支援する。千代田化工建設はシンカポールのコンサルタント企業のトラクエと協業し、アジア進出を進める日系製薬企業に情報提供を行う。東洋エンジニアリングは米ミッドと業務提携しバイオ医薬品エンジニア市場に参入を決めている。（おわり）

ニーズにきめ細かく対応

なか、日揮は医薬品プラントの設計・調達・建設（EPC）で国内トップとなる累計500件超の実績を強

この連載は見玉和弘、三枝寿一、渡邊靖正、堀口昇が担当しました。